令和元年度　越谷市社会福祉審議会
第３回障害者福祉専門分科会会議録

令和２年２月１３日（木）１４：００～１４：５０

越谷市役所本庁舎５階第２委員会室

○委員定数（１７名）

○出席委員（１１名）

高野　淑恵	委員	越谷市手をつなぐ育成会
佐藤　勝	委員	越谷市民生委員・児童委員協議会
高橋　一夫	委員	ロービジョン友の会アリス
小森　孝広	委員	越谷公共職業安定所
岩本　敏英	副分科会長	越谷市歯科医師会
小柳　ユミ子	委員	やまびこ家族会
新美　由美子	委員	越谷市ボランティア育成会
朝日　雅也	分科会長	埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科
小林　大介	委員	公募委員
櫻井　豊明	委員	公募委員
友野　由紀恵	委員	公募委員

○欠席委員（６名）

松田　繁三	委員	越谷市医師会
岡野　昌彦	委員	越谷市医師会
宮下　昭宣	委員	越谷市聴覚障害者協会
松永　久美	委員	埼玉県立越谷特別支援学校
小林　直紀	委員	埼玉県越谷西特別支援学校
仲島　雄大	委員	埼玉県障害難病団体協議会

○事務局出席者

中井	福祉部長	福岡	障害福祉課長
山川	障害福祉課副課長	山﨑	障害福祉課調整幹
島田	子育て支援課長	鈴木	子育て支援課副課長
高橋	障害福祉課自立支援担当主幹	対馬	障害福祉課自立支援担当主幹
砂田	障害福祉課自立支援担当主査	岡田	障害福祉課総務担当主幹
岩崎	障害福祉課総務担当主事	萩谷	障害福祉課総務担当主事

１　開会

※配布資料確認

・次第

・【資料１】第５次越谷市障がい者計画及び第６期越谷市障がい福祉計画・第２期越谷市障がい児福祉計画策定に向けてのアンケート調査報告書【暫定版】

・【資料２】越谷市障がい福祉関連計画策定基本方針

当日配付資料

・委員名簿

・事務局職員一覧

・席次表

２　朝日障害者福祉専門分科会長あいさつ

朝日分科会長　今年度の分科会も３回目を迎えました。年はあらたまり、２０２０年のオリンピックイヤーということで、とりわけパラリンピックを通して障がいがある方の持てる力や可能性がより広く知れ渡るチャンスではないかと思います。それと同時に、誰もが選手として活躍できるわけではなく、障がいがある方が持てる力をそれぞれに発揮して当たり前に暮らし、働いていけるような地域社会が求められていることを実感しています。そのようなことを考えながら、限られた時間ではございますが、本日の会議を皆様の忌憚のないご意見や情報を交換する場としていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

※議長より傍聴人の報告（傍聴人無し）

３　議　事

〇報告事項

（１）障がい福祉関連計画策定に向けたアンケート調査集計結果（暫定版）について

≪資料１に基づき、アンケート結果の暫定版について事務局説明≫

審議委員　前回のアンケートと比較している部分が数か所しかありませんが、全体的にはポイントは上がっているのでしょうか下がっているのでしょうか。

事務局　前回の平成２６年度のアンケート調査と比較して、現状の資料からは比較できるものは数項目しかないということで、資料にはありませんが集計が終わっているものを紹介いたします。障がいのある本人向けにお聞きしたサービスの満足度については、前回よりも若干の改善傾向が見られました。また、４ページの「差別や偏見を感じている方」については、「ある」や「たまにある」が前回より若干減少しています。今後、調査結果が確定した際には、前回アンケートと同じ設問については比較できる状態で報告書をお送りする予定です。

審議委員　１つ目に、アンケートの回収率が３～４割程度というのは低く感じますが、アンケート結果の有効性をどこかに記載する予定はありますか。

２つ目に、各アンケート項目について概要コメントがありますが、調査結果と同じ欄に今後の必要性が記載されています。おそらく、今後どうしていくかは重要と思いますので、後半の説明に下線を引く等の工夫をしてはどうでしょうか。

３つ目に、グラフ全体に言えるのですが、例えば２３ページの棒グラフはアンケー

トの選択肢の順に記載されていますが、高い数値から順に並べたほうが、より何が多い回答率だったのかがわかりやすいと思います。

事務局　　ただいまのご質問に順番にお答えします。１つ目の回収率が低いアンケート結果の有効性については、コメントを入れる予定です。

２つ目の調査結果とそれに付随したコメントを併記していることについては、わかりやすいように分割した形に修正させていただきます。

３つ目のグラフの表記順は見やすいように修正させていただきます。

議　　長　　回収率については、例えば高次脳機能障がいの方は元々２０件しか配布されていないため６名の回答で３割回収したことになりますが、あと１、２名増えるとすぐに回収率は上がってしまいます。このような場合、母集団に代表性があるかが問題となりますが、こういった回収状況であることを前提条件としてきちんと示しておかなければならず、その中で調査結果をどう読むかが重要です。

審議委員　　知的障がい児者の場合、アンケートはほとんど家族が代わりに答えることになります。家族が若いうちは回収率が高く、高齢になると低くなり、本人の周りに代わりに回答できる家族がいなくなるということを示しています。高齢の親たちから回答することが大変であるということも聞きますので、今後、知的障がい者に対する調査方法を検討していただきたいと思います。

議　　長　　９月の合同分科会の折、アンケートをどなたが回答したかを押さえておくことがより深く分析する上で重要であるという提案がありました。本日は、回答者の内訳はわかりますか。

事務局　　調査票の最後に記入者を記載する欄が設けており、知的障がいの調査票回答者の回答の内訳は、本人の記入が２５％、本人と家族あるいは支援者が一緒に回答し支援者が記入した場合が２６％、本人の意思確認は難しく家族あるいは支援者が判断し記入した場合が４４％となっています。これは回答していただいた方の内訳になっており、今後どのように知的障がいのある方の意見やニーズを把握していくかは、検討していく必要があると思います。

議　　長　　回答者の意思がどれくらい反映されているかということも大切ですが、それ以上に現実的に家族が回答せざるをえない状況があるのであれば調査方法自体を考え直さなければなりません。今回の調査では本人の意思確認が難しいため家族等が回答したものが４４％あり、知的障がいのある方の半分近くがそういった状況で回答しているということで、それをどう受け止めるかが問題です。

他にご意見はございませんか。これは調査結果ですので、結果内容についての検討よりも、今後計画を策定していく上でこれらの実態をどうやって反映していくかが大事であると思います。

審議委員　　視覚障がい者の場合、アンケートは読んでいただくわけですが、年配になると文章の最後になると最初のほうがどのような内容であったかわからなくなってしまいます。また、回答するのは２人でやらなければならず、読んでもらう方だけではなく読んであげる方も大変だったそうです。視覚障がい者の場合、回収率を上げることは難

しいと思います。

議　　長　　知的障がい者の場合も視覚障がい者の場合も、実際にアンケート調査を実施してみたり、感想を聞いたりした結果、今後の計画策定における実態調査の方法論を示唆していただくようなご意見でした。

審議委員　　グラフをもう少し見やすくすることはできないでしょうか。

また、現在一人暮らしをしていますが、１１ページにある保護者が亡くなってからの生活で、共同生活できるグループホームや支援者等が充実していけば、知的障がいの方でも生活していけるのではないでしょうか。また、共同生活している方もいずれはアパートに移り一人で暮らすことも必要ではないかと思います。１５ページの６番「地域で暮らす障がい者が困っていた時にできること」で手伝ってもよいと思っている方が大勢いらっしゃるようですが、その方が手伝ってもらいたい障がい者と出会う工夫が大事だと思います。

議　　長　　グラフは、カラー等にすることにより見やすくなるのではないでしょうか。Ａ４サイズに収めようとすると、設問数が多くなればなるほど１つ１つのグラフは小さくなってしまいます。理解しやすくするために説明を加えることも必要です。また、高次脳機能障がいの方は、６人のうち３人がＹｅｓと回答すれば５０％ということになってしまいます。他の障がいのある方と同じ設問であるため、比べられると５０％ということで目立ってしまいますが、３人しか答えていないのに５０％と表示することにどれほどの意味があるのかということも含めて見ていかなければなりません。

知的障がいの方が保護者が亡くなってからどのよう暮らしていくかや、それに対する手助けについては、ご自身の経験からの感想ということですが、具体的に計画を策定する際、実態を読み解く上での手掛かりとしてあらためてご提案していただきたいと思います。

今回の資料は暫定版です。今後、このような回収率ではありますが実態を表すデータとして、確定版をさらに皆さんで共有していきたいと思います。また、可能な限り、前回あるいは前々回のデータと比較することにより、取組みの指標になると思います。前提の違いや新たな追加項目もありますが、特に「意識」面での比較は重要ではないでしょうか。調査結果は皆さんで共有して初めて意義を持ちますので、結果の表示方法や見せ方等についてのご意見や、調査方法の改善点としてのご意見を、今後の実態調査を進めていく上で活用していただきたいと思います。

○報告事項

（２）障がい福祉関連計画の策定体制等について

≪資料２に基づき、来年度の計画策定体制について事務局説明）

審議委員　　６ページに記載されている社会福祉審議会障害者福祉専門分科会は自立支援協議会との連携は行っていますか。あるいは、今後連携を取っていく予定ですか。

事務局　　社会福祉審議会障害者福祉専門分科会では、計画策定に際し計画の素案や修正点および最終案等を事務局から各会議に報告するという流れになっています。自立支援協議会と合同で何かを行うということはなく、報告および提案に対し協議会で検討していただき、ご意見を伺い修正していく予定です。

議　　長　　事務局である市町村が各専門分科会に意見を聞き、同じく市町村が自立支援協議会にも意見を聞くという関係性になっています。６ページの縦線でつながっているのは、連携なのか協力なのか何を意味しているのでしょうか。

審議委員　　６ページにまっすぐな棒線があったので連携を取るのかと思いました。自立支援協議会で出た意見を、事務局が当会議に報告してもらえるのですか。

事務局　　図の縦線は、同列ということではなく、相互に関連する事項を事務局から提示し意見をいただくという意味で表記しました。連携を取りながら何かをやるということではありません。自立支援協議会で出た意見は障害者福祉専門分科会にも報告しながら計画の策定を進めていきたいと考えております。

議　　長　　よろしいですか。以上で議事はすべて終了いたしました。

４　その他

以下の事項について、事務局より連絡を行った。

・第２回越谷市社会福祉審議会全体会が２月２０日（木）に開催を予定している。
・障害者福祉専門分科会は来年度５回開催を予定している。
・令和２年度第１回障害者福祉専門分科会は７月中下旬に開催を予定している。

５　岩本副分科会長あいさつ

岩本副分科会長　皆様のご協力により、円滑に審議会が進みましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

６　閉会